

地方創生推進交付金事業の状況

ヘリテージツーリズムによる桐生 & 足利の広域周遊観光促進事業『東武グループ連携～Happy Happy プロジェクト』

事業概要

首都圏や海外からの誘客を強化し、交流人口の拡大を図るため、東武グループ（東武鉄道・東武トッパーズ）と連携しながら、桐生市と足利市の有する「日本遺産（Japan Heritage）」を核としたヘリテージツーリズムによる広域周遊観光促進事業を行う。

【両市の日本遺産】

○桐生市：『かかあ天下ーぐんまの絹物語ー』

構成資産：白龍神社、旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟、桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区、後藤織物、織物参考館“紫”、桐生織物会館旧館

○足利市：『近世日本の教育遺産群ー学ぶ心・礼節の本源ー』

構成資産：史跡足利学校

令和元年度の実施内容

- 日本遺産周遊まちなかバス運行事業（桐生市のみ）
産学官連携により開発した、低速電動コミュニティバス（MAYU）を土日祝日を中心に、市内イベント時と桐生市内にある日本遺産の構成資産や絹遺産を周遊する定期コースで運行し、ヘリテージツーリズムを推進する。また、MAYUをPRすることにより、バスの製造の受注を助長し、両市の部品メーカーを活性化させる。
- 観光ガイド養成事業 ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止
多言語に対応したまち歩き観光ガイドを養成するため、両市周遊を促す観光案内を提供できるよう各種研修を行うほか、地域住民等の観光振興に向けた機運を醸成するため、市民向け観光講座を実施する。
- ヘリテージツーリズム促進ファミロップ事業
国内外の旅行エージェント（ブローカー）等を招聘し、両市の日本遺産を中心に観光周遊プランを紹介し、旅行商品の造成を図る。
- 映像等による情報発信事業
パンフレットやアニメ映像等の宣伝資料を活用し、国内外へ両市のプロモーションを行う。
- 郷土伝統芸能八木節の上演事業（桐生市のみ）
両市共通の郷土芸能である「八木節」の上演を市内外で行い、新たな観光資源を創造する。
- 東武鉄道連携インバウンド向け企画切符支援事業
両市を周遊できる観光コースの定着化を図るため、切符代、宿泊代、体験料等をパッケージ化したプレミアム切符を企画する。
- 両市周遊化促進パンフレット作成事業
地球の歩き方等の専門誌により両市周遊を促すパンフレットを多言語で作成する。

KPI等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

全体的な効果を図るKPI「観光入込客数」は、台風19号による観光施設の休園や民間温泉施設の休業などもあったことから、目標値の達成は難しいものと考えられる。

新型コロナウイルス感染症の影響で観光客の誘客や観光事業の実施自体が難しい状況であり、東京オリンピック・パラリンピックが延期となり、群馬ステーションキャンペーンによるイベントも多くなると中止となった中、終息後の観光入込客数の増加を目指し、国内外に積極的なプロモーションを行うほか、アフター群馬ステーションキャンペーンについて、鉄道事業者と連携を図りながら両市の魅力を発信する。

国内外の旅行エージェント（ブローカー）等の招聘



	予算額(円)	決算額(円)
H28年度	150,000	150,000
H29年度	13,500,000	12,584,000
H30年度	14,500,000	13,996,000
R元年度	17,500,000	15,568,000
R2年度	19,500,000	

※本市の交付対象経費のみ



アニメCM「ヒトキ桐生足利」



MAYUを活用した観光案内



インバウンド向け観光ガイドブック

KPI(重要業績評価指標)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
観光入込客数(外国人含む)(千人) ※桐生市と足利市の観光客入込客数の合計(1～12月)	目標値		7,504	7,603	7,702	9,003	9,165
	実績値	7,405(基準)	↑ 8,413 (桐生市: 4,298 足利市: 4,115)	↑ 8,834 (桐生市: 4,078 足利市: 4,756)	↑ 9,379 (桐生市: 4,295 足利市: 5,084)	把握不能	
東武鉄道新桐生駅電動アシスト付自転車の利用件数(人)	目標値	200(基準)	210	250	310	390	490
	実績値		↑ 238	↓ 215	↓ 214	↓ 232	
桐生足利周遊観光旅行商品の販売実績(人)	目標値	0(基準)	100	250	450	700	1,000
	実績値		↑ 815	↑ 362	↓ 449	↑ 733	

赤城山観光振興のためのDMO振興事業

事業概要

赤城山山頂を中心とする豊かな自然環境や観光農園などの体験型観光資源、都心部から約2時間ほどで到着可能な立地条件を活かし、国が進める日本版DMO組織を中心とした観光地域づくりを進めるため、赤城山をフィールドとして環境活動を行う「特定非営利活動法人 赤城自然塾」を中心に、総合的な観光方針や共通の課題解決などを行う産官学連携体である「赤城山ツーリズム地元推進協議会」や地域関係者との連携を図りながら、地域資源を活用した多種多様なプログラムを作り、週末型・目的志向の体験型ツーリズムを確立するとともに、ブランドイメージの構築や旅行商品企画、インバウンド対策などを行う。

令和元年度の実施内容

1. DMO実施

(1) DMO事業のマーケティングやマネジメント等の実施、協賛企業募集活動

(2) 観光メニューの開発造成、ワンストップ販売システム運用

(3) 地元住民ガイドのスキルアップ教育等の実施

(4) 自然体験、農村体験など観光資源に応じた各種パンフレットを作成

2. 多機能ポータルサイト運営・管理

DMO事業の国内外への広報活動

3. 市場調査

専門家・有識者による赤城山ツーリズムに関わるデータ評価や解析を行い、ツーリズムメニュー開発等に活かす。

4. モニター事業

(1) 地域資源を活かした体験プログラムによるモニターツアーを実施しニーズの検証等を行う。

(2) 赤城エリアの物産品や赤城山ツーリズムのプロモーションを行う。

(3) 赤城エリアの体験プログラム発掘や造成を行う。

(4) 赤城エリアにおいて新たなおもてなしスポットとなる「赤城サイクルオアシス」を設置する。

【桐生市分交付対象事業】

①各種パンフレットの作成

②モニターツアーの実施

・黒保根 お正月体験ツアー 等

KPI等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

「赤城山大洞地区 観光客数」については、前年度より微増しているが、6月の大雨や7月の低温と日照不足により夏季の観光客が減少し、「赤城温泉郷 入湯者数」については、改修工事により一部休館の施設があったことや、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による3月以降の観光客の減少があったことなどから、目標の達成には至らなかった。

今後については、新型コロナウイルス感染症の拡大により観光客が減少している中、マイクロツーリズムの推進や新しい生活様式に沿った観光受け入れ体制整備を行っていく。

桐生市実施分のモニターツアーに関しては、ある程度の参加はあるものの募集定員には達していないことから、地元事業者・団体等と連携して広報や体験メニューをさらに強化して継続していく。

	予算額(円)	決算額(円)
H28年度	0	0
H29年度	2,000,000	2,000,000
H30年度	2,000,000	2,000,000
R元年度	2,000,000	2,000,000
R2年度	2,000,000	

※本市の交付対象経費のみ

赤城山ツーリズムエリア

KPI(重要業績評価指標)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
赤城山大洞地区 観光客数(人)	目標値	540,000(基準)	542,000	548,000	553,000	558,000	563,000
	実績値		↑ 549,485	↓ 541,427	↓ 544,092	↓ 544,161	
赤城温泉郷入湯者数(人)	目標値	18,100(基準)	18,500	19,300	20,400	21,500	22,100
	実績値		↓ 16,190	↓ 15,315	↓ 13,904	↓ 13,697	
多機能ポータルサイト アクセス数(件)	目標値	0(基準)	0	30,000	45,000	55,000	65,000
	実績値		未開設	↑ 34,043	↑ 81,219	↑ 212,305	

あがしや

花見て、甘味。 一番のお出掛けは黒保根へ。〜

↑ 赤城山情報誌「AKAGIFT」による黒保根町の特集

←モニターツアーのチラシ

「協働チーム」による付加価値創出・海外販路開拓

事業概要（全体）

県内の農産物、地場産業（絹製品、食品（地酒含む）等）を担う中小事業者、卸売業者や関連団体等が分野を超えて連携し、生産性向上や国際規格認証取得等による国際競争力の強化、ブランド力強化や販路拡大、戦略的なPRを通じて国内における様々な需要を開拓するとともに、海外市場の「取り込みを進める。

また、豊富な農産物や食品、歴史ある絹製品などを国内外に発信するための重要な拠点となるジェトロ貿易情報センターの設置やコンベンションセンターの開設など経済活動の交流拠点を核に新たな成長分野を創出し、海外販路の開拓とブランド力強化を図る。

令和元年度の実施内容

- 【農業と地場産業の協働事業】（海外展開のための準備事業）
- 県及び市町村は、農業生産者、地場産業事業者、卸売業者等が「協働」で取り組む、県産農産物や地場産品の魅力を引き出し新たな付加価値を加えた商品づくりを促進する。また、ジェトロと連携し、農産物生産者、地場産業事業者、卸売業者に加え、商社、弁護士等、広告業者及び海外バイヤーとの「マッチング」機会をつくり、「協働チーム（コンソーシアム）」として活動を促すとともに、農業生産者、地場産業事業者等の交渉力強化を支援する。
- 【人的ネットワークを活用した海外販路開拓事業】（海外展開事業）
- 県は、海外市場において影響力のある人物と行政との人的ネットワークを最大限に活用するとともに、さらなるネットワーク拡大を図る事業を実施する。トップセールス、展覧会出展、海外バイヤー招聘、専門家による支援等を通じて、人的ネットワークを構築するとともに、海外販路開拓に取り組む事業者を紹介し、「協働チーム」の取引機会を拡大する。
- 【輸出とイメージアップの相乗効果事業】（国内と海外の同時事業）
- 県及び市町村は、農業生産者、地場産業事業者、卸売業者が「協働」で取り組んだ商品を海外でのP R販売、国内での宣伝、イベントでの周知、SNSやメディア等を活用した情報発信を行い、海外と国内の相乗効果を促進させる。

【桐生市分交付対象事業】

- 桐生地場産業販路拡大事業
 - (1)国内外の展示会出展支援による販路拡大促進（事業補助金）
 - (2)東京インターナショナル・ギフトショー出展

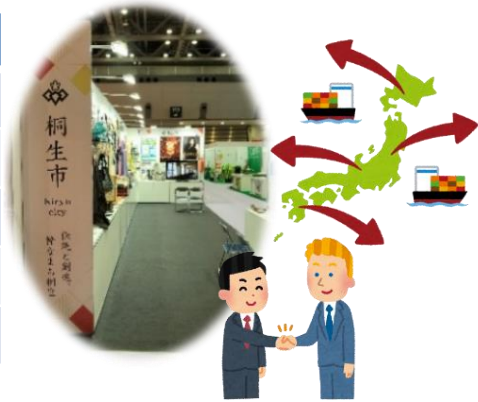
K P I 等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

「協働チームの形成数」については、当初は、香港現地フェアに併せて渡航し、現地レストラン等との商談・協議を通して、県内事業者（異業種）、輸送事業者、現地レストラン等による一つの協働チーム形成を目指していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地渡航断念となり本チームについては形成に至らなかった。

桐生市実施分の展示会出展支援については、新型コロナウイルス感染症の影響等により展示会へ出展する企業が少なかったことから、今後はコロナ後の販路開拓支援を図るため、市内企業の声を聴きながら、効果的な支援のあり方について検討する。

	予算額(円)	決算額(円)
H30年度	0	0
R元年度	4,793,000	2,485,800
R2年度	4,787,000	
R3年度	4,787,000	
R4年度	4,787,000	

※本市の交付対象経費のみ



KPI (重要業績評価指標)		H28 年度	H30 年度	R元 年度	R2 年度	H3 年度	R4 年度
県産農畜産物の輸出金額(億円)	目標値	10.48 (基準)	11.17	11.96	12.76	13.55	14.56
	実績値		↓ 10.37	↑ 12.66			
協働チームの形成数(件)	目標値	0 (基準)	2	4	7	11	15
	実績値		↑ 2	↓ 3			
協働チームの売上額(万円/件)	目標値	0 (基準)	200	400	600	800	1,000
	実績値		↑ 6,770.20	↑ 14,282.70			

群馬県移住支援・マッチング支援事業及び群馬県起業支援事業

事業概要（全体）

【群馬県移住支援・マッチング支援事業（群馬県及び県内全市町村との広域連携事業）】

- 東京23区の在住・在勤者が本県に移住し、かつ本事業により設置したマッチングサイトに掲載された求人枠に応募して就業した場合、または地域課題の解決に向け新たに起業し、本事業による「起業支援金」の交付決定を受けた場合に、最大100万円（2人以上世帯：100万円、単身世帯：60万円）の「移住支援金」を支給する。
※国1/2、県1/4、市1/4負担
- 県が振興する産業分野や良好な労働環境に関する認証を取得している法人を移住支援金交付対象とし、それらの求人広告を「魅力ある雇用の場」としてマッチングサイトに掲載するとともに、オープンデータ化することで多くの求職者に求人情報を届ける。また、マッチングサイトから県・市町村等の地域情報サイトに誘導し、本県の良好な自然環境、生活環境、子育て環境とあわせPRすることで、東京圏の優れた人材を呼び込む。

【群馬県起業支援事業（群馬県単独事業）】

起業地の市町村及び各支援機関と連携し、起業地の市町村が抱える地域課題の解決を図る事業で新たに起業する者に対し、起業に要する1/2の額（最大200万円）を補助する「起業支援金」の交付と起業後のフォローアップ支援を実施することにより、本県における起業をさらに推進する。

令和元年度の実施内容

1. 群馬県移住支援・マッチング支援事業

(1) 移住支援金の支給

(2) マッチング支援事業

 - ・マッチングサイト開設、運用委託
 - ・求人広告作成支援委託
 - ・広報費
2. 群馬県起業支援事業

(1) 起業支援金の支給

※執行団体から補助金執行団体を通じた間接補助形式

(2) 執行団体への補助

 - ・人件費、広報費、外部委員会、事務費

【桐生市分交付対象事業】

- 移住支援金の支給
- 令和元年度実績：1件（群馬県全体：2件）

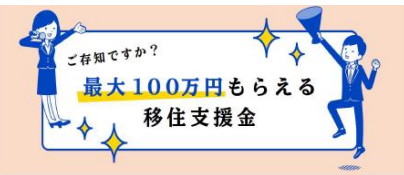
KPI等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

移住支援金事業については、東京23区に連続して5年以上在住・在勤という要件が厳しく、当初の想定より対象者が少なかった。また、マッチングサイトへの求人掲載については、本事業の認知度が低いことや記載項目が多く企業側が負担を感じていることから登録数が伸びず、移住希望者の求める条件をクリアするものが少なかった。

今後については、企業等へ本事業の効果的な周知を行い、マッチングサイト掲載求人数の増加を図るとともに、国による要件緩和の効果を見極めた上で本事業による移住者数の増加を目指す。

	予算額(円)	決算額(円)
R元年度	1,000,000	1,000,000
R2年度	3,600,000	
R3年度		
R4年度		
R5年度		

※本市の交付対象経費のみ



群馬県移住支援金事業のお知らせです！

東京圏にお住まいの皆様、新しい仕事と生活にチャレンジする絶好のチャンスが到来です！群馬県に移住して新しい仕事に就くと、一世帯あたり最大100万円の移住支援金が支給される「群馬県移住支援金事業」が始まりました。

都会からほどよい距離にありながら、広大な生活空間で人生をリフレッシュしませんか？希望の仕事や住まいが見つかるよう、ご相談にもしっかり対応いたします。

お問合せお待ちしております。

♡こんな県です、群馬県♡

- ・物産が全国一安い（総務省統計局「家計調査」）。
- ・県民1人あたり所得は全国8位。製造業が進んで製造品出荷額は全国15位。
- ・充実の子育て環境（子育て満足度ランキング調査1位、全県で中学生以下児童無縁）。
- ・全国一の産出額を誇る牛・豚・鶏、ナスを始め、様々な農産物の生産が盛ん。
- ・香川県、福井県、利根川源流部などの大倉庫、利根川や伊勢湾など多くの名産。
- ・県土の71%が森林で国産一の森林県。

↑ 移住支援金のチラシ

← マッチングサイトに掲載する求人募集のチラシ

KPI （重要業績評価指標）		H30 年度	R元 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
本移住支援事業に基づく移住就業者数(人)	目標値	0 (基準)	240	431	880	1,375	1,870	2,365
	実績値		↓ 0					
本移住支援事業に基づく移住起業家数(人)	目標値	0 (基準)	4	9	14	19	24	29
	実績値		↓ 2					
本起業支援事業に基づく起業家数(人)	目標値	0 (基準)	30	60	90	120	150	180
	実績値		↑ 33					
マッチングサイトに新たに掲載された求人数(件)	目標値	0 (基準)	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000
	実績値		↓ 162					